
異世界逆トリップ

異世界トリップ物が好きな人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界逆トリップ

【Zコード】

Z8511S

【作者名】

異世界トリップ物が好きな人

【あらすじ】

現代から異世界に行くんじゃないくて異世界から現代行くって言つのは無いかな」とか思つてしまつたから書いてみた

そんな訳で魔王が勇者と部下と一緒に異世界・・・じゃなくて現代にトリップして1Kのアパートで暮らしているという普通の話です

(前書き)

何でこんなに書いたのか自分でも分かりません
偶々思いついて書きたくなつたというだけである

「ハア・・・」

この世界に来て何回目か分からぬため息をつく

今俺が居る部屋、そこは家賃用4万、1Kでトイレ、風呂付といふ
結構優良物件のアパートの一室

とは言つても俺が以前まで暮らしていた家とは天と地ビリウムか太陽
と海底ほどの差があると言つてもいいと思つ

詳しく述べ城である

この世界の高層ビルなんて田じやない程の城

数々の部下と共にまあ色々やつて来た

「魔王様～、今日の夕飯は何にしますか～？」

「カレーライス」

まあ俺の部下が余計な事を言つた性で俺の正体がバレた

俺が何者かといふと、ハッキリ言おう

魔王である

とは言つても『元』がつくだけで一気に格が下がるな、うん

じ察しの通り、俺はとある世界で世界を制服しようとしていた魔王それが何があったのか、勇者との戦いの時いきなり次元が歪み見知らぬ世界に放り出された

そのあとは大変だった

車とか言つ鉄の馬に轢かれそうになつたりドウブッシュンとか言つ所に行つてみたらライオンとか言つ生き物に食べられそうに・・・あ、涙出てきたよおとーさん

ぶつちやけ、先ほど俺に話しかけてきた部下、シェリルが居なれば俺の心はどうに折れてたと思つ

いやまあ魔王に心があるのかって話だけじき

魔法さえ使えればこの世界も簡単に掌握出来たのに・・・今では魔法どころか体も縮み子供になつてしまつている

多分この世界の中学生ぐらい

これでは働けない

なので基本シェリルに養つて貰つてている

今では頭が上がらない

別に俺を見捨ててくれても良かつたはずなのにこんな世界に来てまでついて来てくれた唯一の部下・・・つづーか一緒にここへ来たの

はこいつともう一人だけなんだけど・・・

まあそのもう一人つーのが・・・

「魔王、お茶」

「出ねーよ」

「滅ぼすぞ?」

「すいませんでした」

俺はお茶を献上する

そりゃ、こいつは俺がもつとも忌み嫌う存在、勇者である

なぜこんな所に居るのか

それはまあまとめてトリップして来たっていつ事なんだけど

こいつはなぜか魔法が使える

装備も勇者の剣に勇者の服、勇者の靴、勇者の帽子である

勇者の服は環境に応じて姿を変えるという力を有しているためこの世界ではじーんずといーしゃつという服となつている

剣は刀という片刃の業物

切れ味は・・・一回腕切られて分かつた

とんでもねーわ

魔王の再生能力が消えてたら死んでたわ・・・

俺に残つてるのは最早絞りかすと言つていいく程度の能力で再生能力と夜間よく見える程度の能力

それから動物の声が聞け話が出来るという能力のみ

それ以外は皆無、精々魔王の衣という装備のみ

この装備は魔法が使えない限り無意味であつたりする

「うー・・・なんで俺がこんな田」

「それは僕の台詞だ。お前が世界制服なんて企まなければ僕も勇者としてお前と戦う必要も無かつた。ということはつまりここに来ることも無かつたわけだ」

「ふざけんなー！ちやつかり俺の家に居座つて田々コキ使つてくせにソッ！」

「お前だつて一ート生活しかして無いだろ？基本働いて僕らを養つてくれてるのはシェリルさんじゃないか。お前に威張る理由なんて無い」

「いやソーシェリルは俺の部下だ・・・つた奴だつーだがお前とは敵同士だろ？！」

するといシエリルは

「魔王様、私は今でもあなたの部下ですよ」

と言つてくれた

エエ奴や・・・

過去、あんなに口キを使ってやつたにも関わらずついてきてくれる
シエリルは俺にとって最早恩人のような者である

「でもこのままだと夕食が出せないので喧嘩は止めて貰えますか?
魔王様、それと勇者の」

シエリルは勇者の名を呼ぶ

「フーリちゃん」

そう、勇者は女である

それも今の俺とほとんど歳が変わらないような

「はい、すみませんでした」

「じめん」

上が勇者で下が俺

はあ・・・

そんな訳で今日の夕食はカレーである

シェリルの作る夕飯はおいしかったりする

かなり

それはシェリルが俺の世話役、兼城の料理長をやっていたからで、最初こそ元の世界とは違う料理に苦戦していたが1週間もしないうちに大抵の料理は作れるようになり1ヶ月経った今では店を出しても恥ずかしく無いほどである

とこいつわけでシェリルはとあるフランス料理店でコックをやっているまだ1ヶ月経つて居ないので修行中扱いだが近いうちに戦力として扱われるだろう

魔法は・・・使えない

現時点では魔法が使えるのは勇者のみ

なので怪我をした時は勇者を頼るしかない

まあ俺も再生能力あるけども・・・限度つてもんがある

そんな訳でこの奇妙な異世界での共同生活はまだ年単位で続きそりで帰れるのかは分からぬしもしかすると一生この世界でとこいつのも有り得る

別にこの科学の世界で一生を終えるのも悪く無いとは思つてこるので

だが・・・

勇者とずっと共に暮らすところは勘弁願いたい所である

(後書き)

ちなみにショーリルは男です

こんなくだらない短編書いてすみません

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8511s/>

異世界逆トリップ

2011年8月16日00時56分発行